

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 若狭町社会福祉協議会	代表者	会長 山崎 和男	法人・ 事業所 の特徴	『笑顔を導く応援団』を理念とし、ご利用者様・ご家族様・地域の皆様の笑顔を導き出せるようチーム一丸となって運営している。 ひとり暮らし・高齢者世帯が多い地域性のなか、通い・訪問・泊まりサービスを組み合わせ、在宅維持に力を入れている。 地域行事や地域交流に積極的に参加し、利用者様の地域との繋がりが途切れないようサポートしている。
事業所名	小規模多機能ホーム ほたる熊川宿	管理者	山本 真輔		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	4人	人	人	(1)人	人	3人	2人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所全体のスキルアップのために内部研修を実施し利用者様一人ひとりの関わりの強化に努める。	2ヵ月に1回内部研修を実施し関わりの強化に努めた。 他事業所の小規模多機能と連携した研修を実施した。	シートをみただけではわかりにくい⇒総括表と照らし合わせて確認していただきご理解いただく。	在宅継続に必要なスキルの習得に努める。 評価が分かりやすくできるようなシートを工夫するなどの検討をする。
B. 事業所のしつらえ・環境	年間を通じて月1回程度は地域交流室を地域の皆様に利用していただけるよう周知活動し事業所に入りやすい工夫も検討する。	サロン・地域行事の際に施設を開放した。 地域の方への施設の使用方法などについて周知した。	家族が利用していれば分かりやすいだろうが、かかわりのない人にはまだまだ敷居が高く遠い存在というイメージが強い。 職員が忙しそうにしていると邪魔になりそうで入りにくい。	事業所に入りやすい工夫を引き続き検討しながら、掲示板やその他の方法でも地域の方に事業所を周知できるようにする。
C. 事業所と地域のかかわり	地域行事等で施設開放を積極的に実施し、情報の発信や地域の方との交流を図る。 また、行事にも積極的に加わることで地域との関わりを深める。	公民館行事と連動して施設を開放した。 いっぷく時代村へ職員が参加し交流を図った。	相談しやすい場所とは言えないが役場などに比べれば敷居は低いように思う。 老人会などに出向くような形をとるとよいのでは。	地域サロンや地域の組織の会合などに出向き関係を深める。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者様一人ひとりの地域での関わりを再確認し、地域との繋がりを途切れないよう適度に関わっていきける方法について検討し実施していく。	地域の方と利用者様が交流できるよう積極的に行事へ参加した。 特養に行かれた利用者様と地域との繋がりが途切れないよう行事案内など取次ぎを実施した。	老人会と利用者様との関わりが途切れないような活動が出来ている。	敬老会などの地域行事に利用者様が参加できるようにサポート体制を強化し、地域住民の方の支援も得られるように事業所一体で関わる。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議にてより具体的な話を出し合い行動につなげる。	運営推進会議にて地域の気になりな方の情報を交換し関わりの経過・報告を行った。	会議回数が少ないため運営推進会議を活かした取り組みができていないのか分からない。	運営推進委員さんから情報をいただき各団体への関わりができるような取り組みを会議内で検討する。
F. 事業所の防災・災害対策	地域の防災計画に積極的に参加し事業体制などを周知していく。 災害時などの避難受け入れ先として機能するために必要な事項について検討する。 防犯対策について検討する。	熊川・新道の防災行事に利用者様と参加した。 熊川の防災訓練の際に利用者様宅で待機していたが避難の声掛けがなく十分な訓練ができなかった。	実際施設でどういう取り組みをしているのか分からない。 地域の行事に参加していてもあまり認知されていない。	事業所のしつらえと防犯対策の兼ね合いについて検討する。 地域の防災訓練に住民の方と連携して参加できるようにする。 事業所の防災訓練に地域の方も参加していただけるよう計画する。

